경성부사

제 1 권

京城府史

第一卷

朝鮮總督

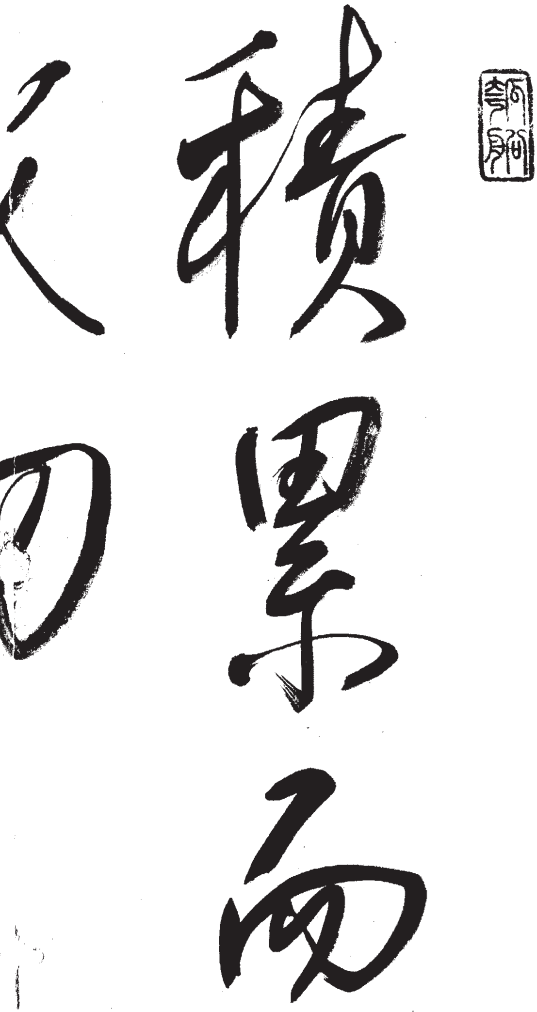
宇垣一成閣下

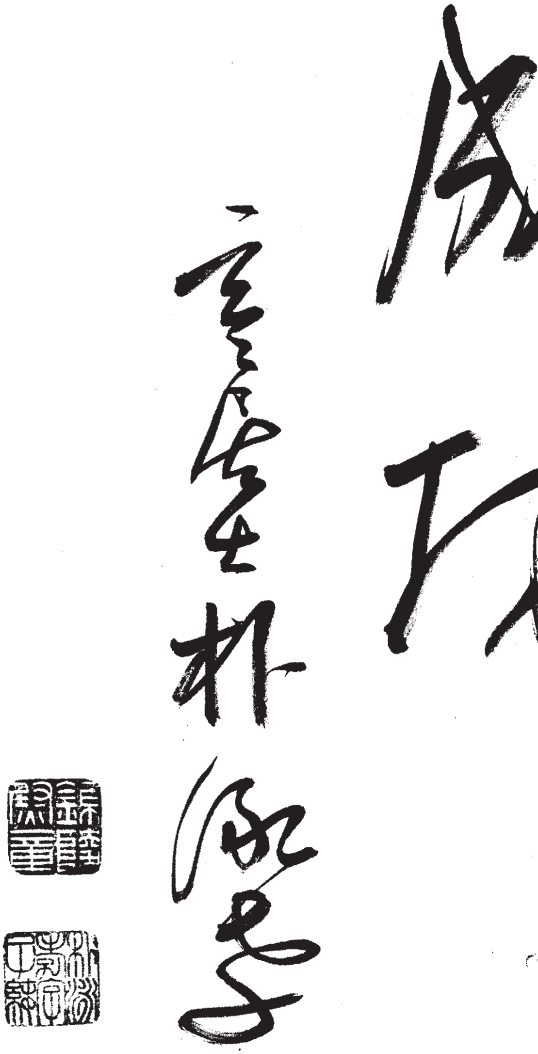
溫故

甲戌春

孟四

侯
尊
外
泳
孝
開
下





男
身
林
藿
助
閣
下

東洋和

平之光

昭和甲戌仲春

林權助題

新羅眞興王巡狩碑

新羅第二十四代眞興王の時漢江流域十六郡の地は百濟高句麗より離れて新羅の領土となり、王は多數の臣僚を隨へて此の新領土を巡狩した。此の碑は之を記念する爲に建てられたもので、現に北漢山の一峯碑峯の絶頂に屹立して居る。巡狩並に建碑の年代は同王二十九年頃であるが、此の碑は當時京城地方が新羅に屬したことを立證する貴重なる史料であるのみならず、朝鮮人の建てた最古の碑の一である。（碑文其の他に就いては第三篇第八章參照）

圖中の左端は京城市街、碑の脚部左方の山は北岳、右方は仁王山、遠く水平に白く見えるは漢江である。（朝鮮總督府博物館所藏寫眞）

新羅眞興王巡狩碑

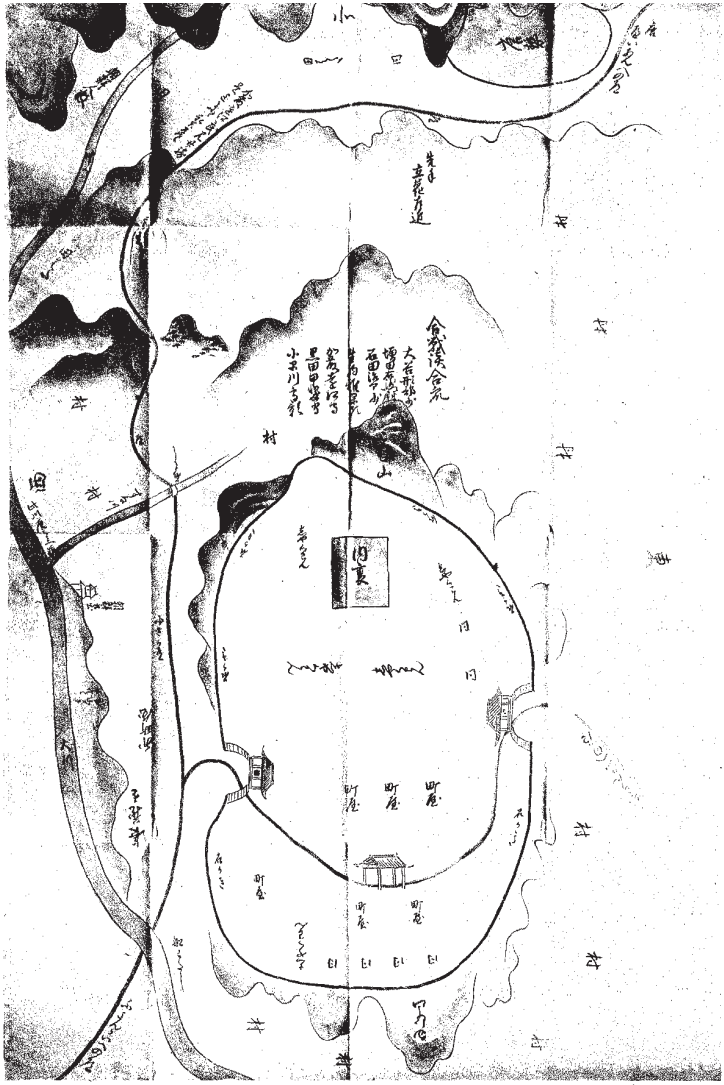
朝鮮國大裏竝陣場之圖　（最古の京城地圖）

本圖の原本は岐阜縣養老郡多良村高木家の所藏に係り、同家の祖先高木友貞が文祿役に加藤光泰に從つて出征し、京城滯陣中自ら筆を執つて描いた所のものである。本圖を納れた小箱の蓋には「朝鮮國大裏竝陣場之圖」と題し、其裏裏に「朝鮮御陣場山川道繪圖往古高木貞友公於其軍中而圖所也幷持來茶磨一器紫純子花色純子之幕ノ端尺餘令傳來所也仍管納而備家寶者也于時延享五戊辰年貞友五世之孫貞往謹而記之畢」と記してある。本圖は東京帝國大學史料編纂所の模寫に據り特に本書に掲載を許されたものである。

圖中の石がきは城壁、內裏は景福宮、こむ山は北岳なむ山は南山、左右の兩門は東大門と南大門である。中央路上の大家屋は鍾路十字路に於ける鐘樓であらう。所々に「ふやかん」とあるは陣屋の意味か。左側より右側の上端に向ひ「唐へいあんへの道」とあるは、支那平安道への道の意味で、東大門の右方に「おらんかひへの道」とあるは間島への道、左側下端の「ふさんかひへの道」は釜山界への道の意なるべく「此の川唐うみへ流る」と記し又「大川」と記入してあるのは漢江のこと、江畔に「長藏有」とあるにて、現元町朝鮮書籍印刷會社を中心とする地點に、江監始め其の他の倉庫が存在したことを示す。上端に「唐勢」とあるは文祿二年に京城に進軍しつゝあつた明軍を指し、左端に「朝鮮人數」とあるは朝鮮兵の意味であらう。北岳の上方に合戰談合衆、大谷刑部少（吉繼）增田右衞尉（長盛）石田治部少（成三）生駒雅樂頭（親正）加藤蔓江守（光泰）黑田甲斐守（長政）小早川高影（隆景）と書し、尙ほ其の上方に「先手立花左近」「加藤蔓江殿物見是迄參候、私共罷越候」とあるより、日軍の明軍に備へた形勢を見るに足り、本圖が文祿二年正月二十六日碧蹄館役前後のものであつて、貞友自身の手によつて製せられた地圖であることも明瞭となる。

本圖は昭和九年を去ること正に三百四十二年前のもので、一面史料として頗る貴重のものである。

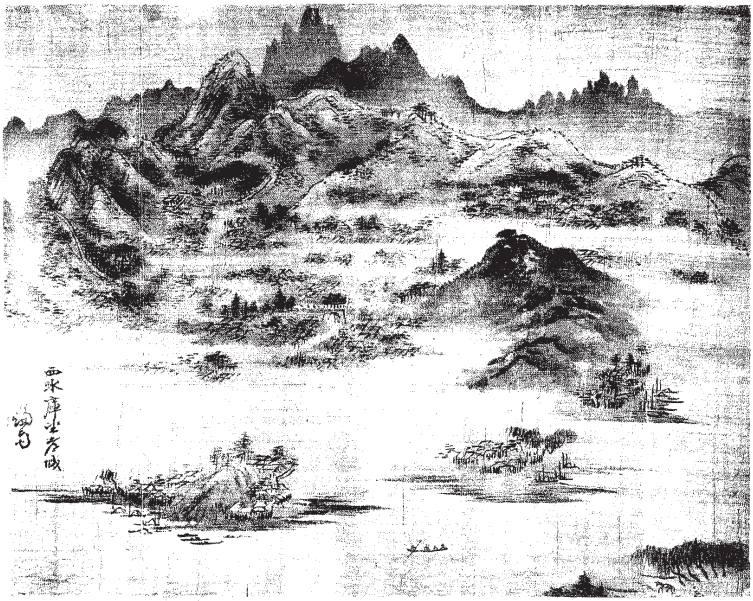
日迄發見せられた京城古圖中最古のものである。



朝鮮國大裏並陣場之圖

二百年前の京城鳥瞰圖

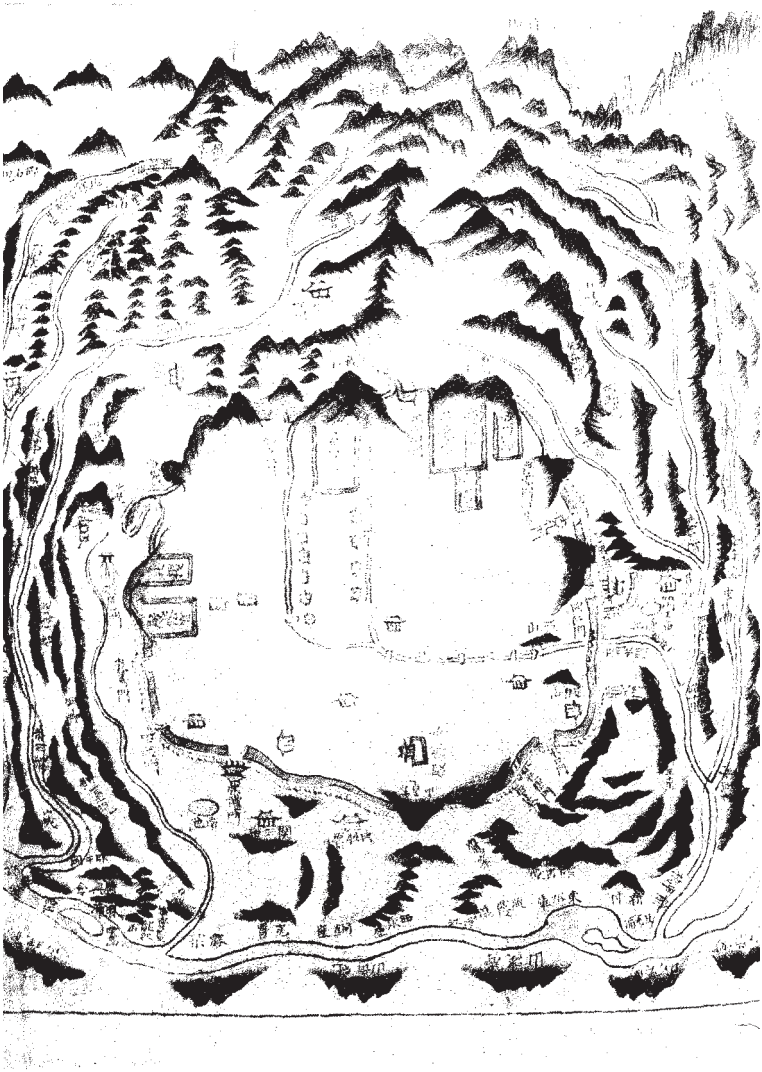
本圖は李朝三齋の一と稱せられ忠實なる風景寫生を得意とする英祖朝の人鄭（號は謙齋又は關谷）の筆である。右の下端は始興郡の銅雀津、河尙ふの三部落は、右方より見て豆毛浦、漢江里、西氷庫である。豆毛浦の上方に臥牛の如く見ゆる山は南山、南山の絕頂には今もある一大老樹が續はつてゐる。その西麓には南大門がある。南山絕頂の直上は昌德宮、昌慶宮、その右方は東大門、北岳の下方は云ふ迄もなく景福宮、仁王山の下方深林中の宮殿は慶熙宮である。連なる山脈の峰を廻ぐる曲線は城壁を現はす。南大門西大門間の松林、及び現松峴洞の位置に密樹の鬱蒼たる、荒れ果てた景福宮內に慶會樓の石柱らしいものが見えるなど、歷然として當年の京城の姿を眺めることが出來る。殊に北漢山連峰の姿態に至つては最も巧妙に表現されてゐる。（碧村久藏氏所藏）



二百年前の京城鳥瞰圖

京　都　圖

本圖は李朝第十五代光海君八年（西暦一六一六年）に建立した慶德宮（後の慶熙宮）が記入してあるにより同八年以後の作であり、又第十九代肅宗三十七年（西暦一七一一年）に鑄造した北漢山城及び漢北門の記入がないから、同年以前の製作によるものらしく、恐らく朝鮮に於て發見された京城地圖中の最古のものであらう。本圖によつて興德門の舊基及び光熙門（舊光熙門で今の水口門ではない）の舊基や、西小門卽ち昭義門を昭德門と稱したこと、流霞亭華陽亭の位置、豆毛浦の隣に東氷庫のあつたこと、東大門外に蓮池のあつたこと等を知ることが出來る。（李王職所藏奥地圖之部）



京　都　圖

舊景福宮光化門

本圖は舊時の王宮景福宮の正門光化門である。門は石造三箇の穹門を列ね、其の上に堂々たる木造の重層楼を構へ、門前は一段高くして左右に石欄を施し、其の前數十歩に相對して二箇の獅子が置かれてある。門の後方は即ち白岳で、前方兩側の建物は當時の官廳六曹であつて、昔は此所の廣場を六曹前と稱した。景福宮址に朝鮮總督府の廳舍が建設せられてから、該門は府の東側に移轉せられて全く舊時の面目を一新した。路行く男女の服裝も亦今は見られぬものである。

（本圖は佛國人マーテル氏の所藏、景福宮に關しては第五篇第一章の四景福宮の沿革參照）

瞢景福宮光化門

京城府史　第一卷　目次

第一編　高麗朝以前の京城……一

第一章　太古三國及び新羅時代の京城……一

一　西暦前一世紀の終期……三

二　西暦第四世紀の終期……三

三　西暦第五世紀の初期……四

四　西暦第五世紀の後半……四

五　西暦第六世紀の中葉……四

六　西暦第七世紀の初期……六

七　西暦第七世紀の終期……六

第二章　高麗時代の京城……八

一　高麗時代の京城概觀……八

二　京城名稱の變遷……三

三　京城を中心とせる先史時代の遺物遺蹟……二四

四　京城を中心とせる高麗朝以前の史蹟及遺品……二六

第二編　李朝時代の京城（其の一）……三三

第一章　李朝國初に於ける首府京城の建設……三四
一　京城奠都事情……三四
二　宗廟社稷……四一
三　景福宮……四五
四　昌德宮……五三
五　昌慶宮……六四
六　王宮に準ずべき宮殿及び其の他の建築物……七三
七　壇……八二
八　文職公署……八九
九　武職公署……一三
一〇　地方官署……一二九
一一　京城の區域・周圍の山相坂路及び勝地等……一三〇
一二　京城市街の概況……一四五
一三　京城都城の築造……一五六

第二章　文化より見たる李朝初期の京城……一七八
一　政治的都市の京城……一七九
二　教育的都市の京城……一八一
三　學術技藝と京城……一八五
四　土木建築等と京城……一九四
五　佛教の消長と京城……二〇九
第三章　李朝國初に於ける事變と京城……二二一

第三編　李朝時代の京城（其の二）……二二七

第一章　京城と士禍……二二七
一　戊午士禍……二二七
二　甲子士禍……二二九
第二章　燕山君の非行と京城都民の受難……二三〇
第三章　中宗以後の京城と文化及び士禍朋黨……二三三
一　文　化……二三三
二　己卯の士禍……二三八

三　乙巳の士禍……二三九
四　朋黨の弊……二四〇
第四章　文祿慶長役當時の京城……二四三
一　京城を中心として見た同役の經過……二四三
日鮮の交渉、京城の防備、宣祖の蒙塵、日軍京城に入る、明の援軍、日軍の京城撤退、明軍の撤退と京城通過、再役に於ける京城
二　同役に於ける京城の荒廢……二六七
京城の火災、日軍の對民態度、京城の荒廢と明軍の對民態度
三　同役に關する史蹟傳說……二八二
京城府内の史蹟、當時の火災を免れた建築物、京城郊外の史蹟、傳說
第五章　大役後四十年間に於ける京城の消長……二九〇
一　仁祖の反正と京城の土木……二九〇
二　李适の亂と京城の慘害……二九五
三　丙子の胡亂と京城の荒廢……三〇三
第六章　日鮮國交の恢復と通信使の京城出發……三一七

第七章　西洋の文化と京城……三三
第八章　京城の鎭山北漢山の築城……三四
一　北漢山の古城……三三
二　寺院及び其の他……三三
第九章　京城の鑄錢官署と錢貨の全國的流通……三四八
第十章　本期間建造の宮闕公署及其の變遷……三四九
一　宮　闕……三四九
景福宮出火、慶熙宮、仁慶宮、慈壽宮
二　王宮に準ずべき宮殿其の他……三五九
一司七宮中の二宮及諸廟、別廟、其の他の宮祠・壇・亭等
三　寺　廟……三六七
四　各公署……三七七
五　其の他……三八二

第四編　李朝時代の京城(其の三)……三八五

第一章　英祖正祖時代の京城……三八六

一　英祖時代……三八六
二　正祖時代……三九六
第二章　英祖時代以後の開川(清溪川)浚渫工事……四〇四
第三章　正祖純祖時代の諸書に現はれた京城市街・勝地の狀況及び其の他……四〇九
第四章　純祖以後の京城……四一九
第五章　京城を中心とする天主教の布教と佛國宣教師の殉職……四二九
第六章　本期建造の宮廟・公署等及び其の變遷……四三三
一　一司七宮中の三宮……四三三
二　其の他の諸宮殿・祠……四三四
三　公署其の他……四三六
四　碑閣……四三九

第五編　李朝時代の京城(其の四)……四四七

第一章　大院君執政時代の京城……四四七
一　國勢振興の企圖と人材登用……四四八
二　書院・鄕祠の撤廢と京城附近の書院……四四九

三　政治の改革と京城……四五〇
四　景福宮の造營……四五三
五　天主教徒の虐殺と外寇とに脅威された京城……四七七
第二章　閔氏勢道時代の京城……四八九
一　閔氏隆興の當初より日清戰役開始迄の京城……四八九
王妃閔氏の冊立、外交の一轉機と京城、內政の改革、壬午の亂、濟物浦條約と京城、清國の高壓政策と京城、甲申の亂(其の一)、甲申の亂(其の二)、露清兩國の角逐と京城、支那の勢力と京城日本居留民の困窮、防穀令事件と京城
二　日清戰爭當時の京城……五五八
東學黨の蜂起と京城の不安、金玉均の最後、大鳥公使の入城と開化黨の擡頭、大島旅團の活動、京城を中心とする日軍の徂徠、井上伯の入城と革政、日清役直前の京城市街狀況
三　景福宮の變……六一六
第三章　日清役後より日露役後迄の京城……六三三
一　國王奪取事件……六三三

二　開化派の大改革……六三五
三　斷髮令と騷擾……六三六
四　國王の露館潛幸と京城及び地方の動亂……六三七
五　露國勢力の浸潤……六四六
六　安驅壽金鴻陸事件……六五四
七　京城一時平靜……六五五
八　獨立協會と負褓商との衝突……六五七
九　電氣鐵道の開始……六六一
一〇　露國の南下(其の一)……六六三
一一　獨逸國ヘンリー親王の入城……六六五
一二　爆彈事件……六六七
一三　京元線の敷設許可……六七〇
一四　電車燒打事件……六七一
一五　朝鮮最初の鐵道京仁線……六七六
一六　龍山方面の電車開通と電燈の嚆矢……六八三
一七　北清事變……六八四
一八　京釜鐵道會社の成立……六八六

一九　南大門停車場敷地問題……六八九
二〇　露國の南下(其の二)……六九一
二一　第一銀行券通用禁止事件……六九二
二二　京義鐵道の起工……六九八
二三　露國の南下(其の三)……七〇一
二四　日露の直接交渉……七〇四
二五　日露開戰當時の京城……七〇六
、明治三十六年後半期の京城並に仁川、戰役直前の京城並に仁川、戰役序幕の京城並に仁川、日韓議定書、京城を中心とする日軍の徂徠、京仁に於ける日本人の增加と財界の變調並に地方の不安、駐劄軍司令部の設置、兩大使の往來、伊藤大使歸國後の國內不穩、慶運宮の火災、韓露の國交斷絕、滿洲丸觀戰團の入城、京城及び地方の騷擾と一進會の創立、第一日韓協約、駐劄軍司令部の編制改正、戰役中に於ける騷擾と共進會の創立、貨幣制度の確立、皇太子妃殿下の薨去、軍事警察制度、鐵道監部の活動と京義線の開通、義陽君の東上と伏見宮殿下の入城、京釜線の速成計畫と其の全通、韓國駐劄軍

の凱旋と新守備隊

二六　日露戰爭終了後の京城……七九

財界の恐慌と救濟政策並に諸金融機關、通信機關の合同と京城並に京城を中心とする通信機關の沿革、第二日韓協約の締結、